

《学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の活動について》

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 令和4年4月19日 文責 渡邊

はじめに、函南町のコミュニティ・スクールについて説明いたします。

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置した学校のことをいいます。函南町では、平成29年度に丹那小学校と桑村小学校をコミュニティ・スクールに指定しました。本校のコミュニティ・スクールは、「桑村小 学校応援団会議」という名称を付け、地域や保護者の代表の方々と学校職員が学校運営や教育活動について話し合い、連携を図ってきました。

また、令和2年度から、町内全ての小学校、中学校で「学校運営協議会」が設置され、地域の方々の声を学校運営に取り入れながら、「地域とともにある学校」づくりを進めてきています。

【コミュニティ・スクールの魅力とは】

①子供にとっての魅力

- ・子供たちの学びや体験活動が充実します。
- ・自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- ・地域の担い手としての自覚が高まります。
- ・防犯、防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

②教職員にとっての魅力

- ・地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となります。
- ・地域の人材を活用した教育活動が充実します。
- ・地域の協力により、子供と向き合う時間が確保できます。

③保護者にとっての魅力

- ・学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。
- ・地域の中で子供たちが育てられているという安心感があります。
- ・保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

④地域の人々にとっての魅力

- ・経験を生かすことで、生きがいや自己有用感につながります。
- ・学校が社会的につながり、地域のよりどころとなります。
- ・学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- ・地域の防犯、防災体制等の構築ができます。

(『コミュニティ・スクールのつくり方』文部科学省 令和元年10月) より

桑村小学校では、学校教育目標「なかまとともに 学び合う桑っ子」の具現化に向け、本校の教育活動を保護者や地域の方々との結びつきをもとに、4つのグループで組織しています。

- ①「基礎基本の定着『学びづくり』」－桑村道場等
- ②「豊かな『体験づくり』」－原生林探検、田植え・稲刈り、お茶摘み体験等
- ③「子供たちの学びを支える『安心・安全づくり』」－登校・下校見守り等
- ④「豊かな心を育む『心づくり』」－読み聞かせ、校舎内の美化活動等

令和4年度の桑村小学校の学校運営協議会(コミュニティ・スクール「桑村小学校応援団会議」)の委員の皆様が決まりましたので紹介します。

- ①鈴木 薫さん(元主任児童委員)
- ②松井 保樹さん(元学校評議員)
- ③石渡 栄さん(元学校評議員、花咲おやじの会会長)
- ④米川 清詞さん(元学校評議員)
- ⑤江間 香さん(元学校評議員)
- ⑥中村 滋さん(桑原区 区長)
- ⑦高田 光大さん(大竹駐在所 巡査長)
- ⑧植田 庸介さん(PTA副会長)
- ⑨塚平 研二さん(PTA副会長)
- ⑩漆田 晶代さん(PTA会長)
- ⑪奥山 忠信さん(ヒューマンヒルズ区 区長)

第1回「学校運営協議会」は、5月11日(水)に予定しています。皆様には、この会議で協議したことをお伝えしたいと思います。

《地域に支えられて とても良い話!》

4月7日(木)に、全職員で畑の耕作作業を行いました。天気のよい日で、昨年のマルチで活用した黒いビニルシートを剥がしたり、草を取ったりする作業からスタートしました。とても順調に作業は進んでいきました。

しかし、この後、大きな問題が発生したのです。耕耘機を使って畑を耕そうとしたとき、それは起こりました。何と耕耘機のエンジンが作動しないのです。

「どうしよう。このままでは作業ができない…」と困っていたときに、下から畑を耕す機械の音が聞こえてきました。

そこで、下の畑に出向き、作業をしている方(学校の近くにお住まいの渡辺さん)に事情をお話しし、助けていただけないかとお願ひしましたら、「よし、分かった」と、ご自分の畑の耕作を後回しにし、学校の畑を機械で耕作してくださいました。

たいへん助かりました。職員が手作業で耕したのでは終わりは見えませんでした。学校の教育活動が、いろいろな場面で地域の皆様方に支えられていることを強く感じました。



地域の方々の応援がうれしかったです。これからもよろしくお願ひします。